

■EA21取得事業者の紹介

# 地域に開かれ、地域とともに発展する 大学をめざして

(国立大学法人 琉球大学)

## ●エコアクション21に取り組んだ動機●

2001年4月24日制定の「琉球大学環境憲章」において琉球大学は、自然や社会における琉球大学の存在基盤を地球のエコロジーという観点から再構築し、教育、研究、社会貢献のありようを未来へと発展させていくことを宣言し、これまでさまざまな環境活動に取り組んできました。

2006年9月にエコロジカルキャンパスに関する諸施策を全学的に推進・実施していくために、エコアクション21(EA21)へ取り組むことが役員会で決定され、同年10月に「琉球大学EA21キックオフ宣言式」を行いました。EA21の取り組みは、本学の組織規模を考慮し3カ年にわたり全学で認証取得する計画です。06年度は大学本部・附属図書館にて取り組みを行い、07年5月15日に認証取得し、07年度は全学部へと活動範囲を広げ、08年度に認証取得しました(写真1)。引き続き附属病院および各センターと進めていき09年度に全学での認証取得をめざしています。

## ●EA21に取り組んで

### よかったこと、苦労した点●

本学は琉球大学環境憲章に則り、環境活動を推進してきましたが、全体としての環境意識が不足していたことと、環境教育・研究の取り組みについては、各学部等に委ねていたため取り組み内容、成果等が把握できない状況

でした。また、省エネについても経費節減が主眼となりがちで、環境を意識した取り組みは薄かったと考えます。

EA21では記録・文書の作成が必要になりますが、それを各学部等にご依頼すると、「作業が増え日常業務に支障をきたす」といった一部苦情も当初は寄せられましたが、環境活動レポートを公表し外部審査を受けるということもあって、少しずつ教職員の環境意識が改善され、積極的に取り組むようになりました。

大学全体の取組状況の記録・文書の作成には相当の時間を要しましたが、結果として日常業務の改善も図れました。また、情報を共有し取り組みを継続していく中で、今後の業務の効率化にもつながっていくと考えます。

たとえば環境関連法令は、財務・契約に関すること、安衛法に関すること、薬品管理に関すること、省エネに関すること等は各学部等で処理が行われており、大学全体としての



写真1 学長へ全学部認証取得の報告

取りまとめができていない状況でした。全体の環境関連法令を取りまとめていく中で、担当者レベルでは改善できなかったことや不具合等を抽出し、解消していったことは大きな成果です。環境関連法令の取りまとめについてはまだまだ課題がありますが、徐々に改善を図っているところです。

学部等における取組みについては、初年度ということで、独自の目標設定が難しく取組み不足気味でしたが、現地審査において、審査人の適切なアドバイス、指導等もあり、EA21で何を取り組むべきか理解が進んだと考えます(写真2)。今年度は学部等も2年目になりますので、取組みも活発化し、現在は各学部等において、独自の環境方針・目標・行動計画をたて、活動しているところです。

### ●EA21の認証・登録

#### ●によって得られたこと●

2007年5月に、国立大学法人として初めてEA21の認証・登録を受け、マスコミ等にも多く取り上げられました。また、08年3月には環境省と人間環境フォーラムが主催する「第11回環境コミュニケーション大賞」の環境活動レポート部門で優秀賞も受賞し、地域社会、受験生などに強くアピールできたと考えます。

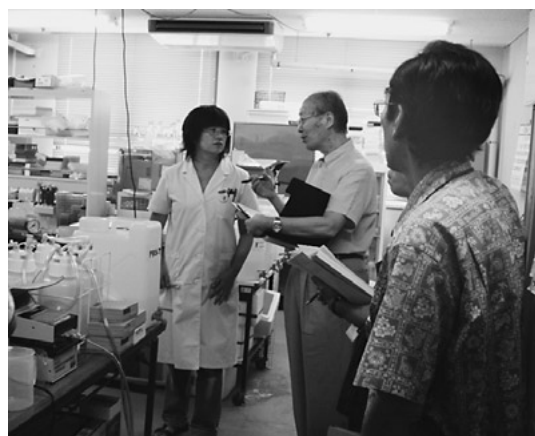


写真2 取組状況のヒヤリング

琉球大学は、亜熱帯島しょ地域という自然環境、琉球王国時代からの歴史文化等の地域特性に深く根ざした研究に特化し、個性的な大学になろうとしています。環境憲章の理念は、すべての教育研究の分野に関連する大きな広がりをもつものです。今後も、EA21を切り口として、環境憲章の理念を踏まえ、教育研究の活性化につなげていきたいと考えます。

### ●2007年度の取組み●

#### ①学生の環境保全活動

##### ・中村文昭氏講演会

2007年度の環境月間行事の一環として、EA21学生委員会主催による講演会が行われました。TEAM GOGO!の呼びかけ人である中村文昭さんをお迎えして、TEAM GOGO!プロジェクトへの思い、地球に対する思いを、過去の経験やエピソードを交えながら面白おかしく語っていただきました。

##### ・エコ学園祭

2007年10月6～7日に行われた第56回琉大祭では、06年度に引き続き学生が組織する実行委員会が主体となって、模擬店等から出るごみの減量化と分別の徹底に取り組みました(写真3)。

##### ・ビーチクリーンin津堅島

1日目は2つのビーチの清掃を行い、夜は



写真3 学生によるごみの分別作業

バーベキューをしたり、津堅島在住の方にお話してもらったり、環境についての勉強会を行いました。2日目には朝からのビーチクリーンの後にリサイクルとマイグッズについての分科会を開きました。2日間にわたるビーチクリーンはとても充実した形で終わりを迎えることができました。2日間で集めたごみ袋は合計260袋以上になりました(写真4)。

## ②環境教育

### ・入学オリエンテーションでの啓発活動

2007年4月5日、入学式に引き続き行われたオリエンテーションにおいて、EA21総括副責任者の法文学部・伊波美智子教授が、新入生1,700名にエコキャンパスの紹介を行いました。

### ・環境教育に関する開設科目

「琉球大学環境宣言」を具体化する方法の一つとして、共通教育等科目および専門科目において環境系科目を広く開設し、学生が積極的に環境問題に取り組むよう環境教育の充実を図っています。

各学部・各研究科の専門科目については、地域特性に応じた独自の科目を開設し、共通教育等科目との連携により、自然環境に対する高い啓発教育を供し、地域コミュニティの視点から積極的に取り組む意欲と能力を養成します(写真5)。



写真4 集めたごみの分別作業

### ・附属中学校の取組み

**1 学年親子美化作業：**第1学年PTS行事「附中クリーン作戦」と題し、地球温暖化など環境問題を親子で考えるポスターセッション形式の講習(写真6)と清掃活動を行いました。

**2 学年エネルギー宿泊研修会：**2学年生徒希望者40名により、伊江島バイオエタノール製造施設見学、やんばる海水揚水発電所見学、具志川石炭火力発電所見学、漠那ダムビオトープ見学、名護青年の家職員によるナイトウォークラリーと講話などを行いました。

### ・附属小学校の取組み

**環境美化活動：**今年度もグリーン委員会の活動で、栽培活動や飼育活動を行っており、その一環として、ごみ減量化のために給食棟



写真5 「フィールド基礎実習II」刈草での堆肥作り



写真6 ポスターセッション形式の講習



から出る残飯(野菜くず)は、飼育動物のエサにしてなるべく生ごみを減らすようにしています。

### ③環境研究・社会貢献活動等

#### ・CO<sub>2</sub>削減を考慮した自動車運転方法に関する研究 (琉球大学工学部 渡嘉敷健)

私は自動車交通騒音に対する主観評価の研究を行う中で、交通量についても調査研究を行ってきました。実験および試算では、アイドリングストップにより1,500cc車で満タン40Lの場合、燃料費の約3割の節約になり、単純計算すると日本で走る自動車を約7,000万台とし、1台当たりの削減量を掛けると全体で1,400万tになり、この量は日本の排出量(3.04億t:1994)の約5%の値になります。

これにより、交通渋滞が多い沖縄県ではアイドリングストップの様な身近なエコ活動によりその効果も大きくなると考えられます。

#### ・未利用植物由来の天然成分を活用した有害線虫の防除に関する(研究琉球大学農学部 田場 聡)

われわれの研究室では、熱帯・亜熱帯で栽培される農作物の病害に関する研究を行っています。本研究において、野菜類の根に寄生し被害を引き起こすネコブセンチュウという土壌害虫の防除について、アワユキセンダングサ(方言名:サシグサ)がもっとも有効であることが判明しました。この植物抽出液に含まれる天然成分の線虫制御メカニズムは独特で、殺虫効果はもちろんのこと、運動阻害や孵化阻害さらには忌避効果を併せ持つことが明らかになり、現在は本結果に基づいた特許を申請するとともに、科学技術振興機構(JST)の研究課題に採択され、亜熱帯未利用資源を活用したネコブセンチュウ防除剤の作製を推進しています(写真7)。

#### ・第1回防災・環境シンポジウム

2007年12月1日に、那覇市内で本学防災・環境ネットワークの実行委員が主催した「第1回防災・環境シンポジウム～亜熱帯海洋島嶼防災・環境ネットワークの拠点形成～」が

開催され、約200名が参加しました。

#### ・第21回太平洋学術会議

太平洋学術会議は4年ごとにアジア太平洋のさまざまな都市で開催される国際会議で、21回目となる今回(運営委員長:岩政輝男)は、県内8大学が連携協力して運営に当たりました。「太平洋域における自然と社会の多様性」をメインテーマに、2007年6月12～18日にかけて、沖縄コンベンションセンターで開催され、50カ国(地域を含む)から約800人の参加者を得て、予想以上の成果をあげ、成功裏に終了しました。

また、本会議には、高円宮妃殿下がご臨席され、開会式でお言葉を述べられるとともに、鳥類保全分科会にて特別講演を賜りました。その他にも会期中に生物多様性、サンゴ礁などの分科会にも参加されました。

#### ・実物資料による教育支援活動

琉球大学資料館(風樹館)には、学内の研究者によって、教育や研究活動で収集された琉球列島の自然や文化に関連した約4万点あまりの貴重な標本や資料が収蔵されています。当館では、これらの収蔵資料の有効活用の一環として、県内の小中高校や公民館などと連携して、地域の学校教育や生涯教育における教育支援活動を実施しています(写真8)。

#### ・2007年度千本桜植樹祭

地域に開かれ、地域とともに発展する大学



写真7 線虫防除剤作製への取り組み



写真8 ビオトープでの小学校理科の野外授業

をめざす取組みの一環として、本学と隣接する中城村、宜野湾市、西原町との協賛のもと、2007年度千本桜植樹祭が12月1日、本学千原

キャンパス内の中城地区で実施されました。

●その他—今後EA21システムに望むこと●

今年が取組み3年目ということで、学内の認識が大分変わったことが、実感できます。これも、現地審査において審査人の適切なアドバイス、指導があつての賜と考えます。

今後は、EA21システムを継続していく中で、環境の面だけでなく、経営や社会を取り込んだ「企業の社会的責任・責任度(CSR)」に近いところまで、大学も発展していくと考えます。「わが国における「国連持続可能な開発のための教育の10年」実施計画」を意識して展開するよう、審査人からもアドバイスを受けました。

EA21システムも、これらに対応したシステムに発展していくことを望みます。